

## Dialogue 5 Saying sorry -あやまる-

### 教室での活動案

アクティビティ名: 「あやまらなくっちゃ！」

グループごとにカードを使った「神経衰弱」ゲームをする。

- 1) 謝る場面 (10 枚) と、感謝する場面 (10 枚) を絵に描き、裏返しておく。

謝る場面：

ガラスを割る、盆栽の鉢をこわす、車で泥水を跳ね上げる、遅刻する、 など。

感謝する場面：

花束をもらう、お菓子をもらう、宿題を助けてもらう、 など。

- 2)じゃんけんをし、順番を決めて、「神経衰弱」の要領で 2 枚のカードをめくる。  
謝る場面のカードを引いたら “I’m sorry.”、感謝するカードを引いた場合は “Thank you!” というルールを説明し、みんなで練習する。
- 3) 謝るカードを引いたら “I’m sorry.” と言い、次のカードを選んで、同様に謝る場面を引き当てたらまた “I’m sorry.” と言って 2 枚ともカードをもらえる。
- 4) 感謝するカードを引いた場合は “Thank you!” と言う。次のカードを選んでめくり、2 枚同じ種類のカードが揃わない場合、そのカードは元に戻す。
- 5) 定められた時間内に獲得したカードの多い人が優勝。

例)

Teacher: Let’s start a card game!

( 2 種類のカードを提示しながら )

This is a “thank you” card, and this is an “I’m sorry” card.

First, play *janken* in a group and decide the order.

( カード 20 枚を裏返しに広げる。 )

( 1 枚カードをめくる。感謝カードをひいたとする。 )

If you get a “thank you” card, you say, “thank you.”

If you get an “I’m sorry” card, you say, “I’m sorry.”

( 2 枚目のカードをめくる。感謝カードだったとする。 )

Oh, This is a “thank you” card, again. I’m lucky. I can get a pair of cards.

But, if this is an “I’m sorry” card, you can’t get any cards.

Instead, the next player will choose the card.

The player that will get the most pairs of cards will be a champion.

教師：カードゲームを始めましょう。

（２種類のカードを提示しながら）

これは「感謝カード」で、これは「謝罪カード」です。

まず、グループ内でじゃんけんをして順番を決めましょう。

（カード 20 枚を裏返しに広げる。）

（１枚カードをめくる。感謝カードをひいたとする。）

もし、「感謝カード」を引いたら、引いた人は「ありがとう」と言わなければいけません。

もし、「謝罪カード」を引いたら「ごめんなさい」と言うんですよ。

（２枚目のカードをめくる。感謝カードだったとする。）

あ、また「感謝カード」です。ラッキー。私はこのカードを一組もらえます。

でも、もし「謝罪カード」だったら何もゲットできません。

そのかわりに、次の人がカードを選ぶのよ。

一番カードが多い人が勝ちです。